

反撃に追い詰められ『タレ込み』にはしる 土屋粹一派を職場から解体・一掃せよ

日刊 動労千葉

87. 5. 23

No. 2557

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五六（公衆）〇四七二二七二〇七

『4・7暴力事件』デッチ上げ弾劾

権力・当局・動労革マル松崎―「千葉地本」土屋一派が一体となつた動労千葉破壊のための「4・7デッチ上げ」事件も、「日刊」紙上での事実の暴露・断罪と職場での反撃、あるいは中江選挙闘争の勝利、そして何よりもデッチ上げであるという事実のためにならふみこめないでいた。そして、この反撃に恐怖した土屋らは二〇日、または動労千葉組合員との会話を口実にして当局に「タレ込み」を行った。デッチ上げの上塗りを行う卑劣漢・土屋粹一派を職場からたたき出せ。

「取られた」はずの手帳を新聞に掲載

権力・当局・動労革マル松崎―土屋一派らは、われわれの「4・7デッチ上げ」に対する猛烈な反撃にタジタジとなり、四月十六日の幕張電車区の「現場検証」以降、なんらわれわれに手をつけられないでいる。

それどころか逆に、土屋一派の方がわれわれの反撃にビクビクしている始末である。

また、動労革マル松崎は、当局への申し入れの中でもはつきりと「取られた」と明文化した土屋の乗務手帳を、四月二〇日付「東鉄労」新聞で写真入りで出してしまふという失態を演じた。さらに、五月十日に行われた「動労第一三三回中央委員会」の資料では、ついに手帳のこなど一言も触れられていないのである。まさに、われわれの反撃により敵の側がデッチ上げのことを認めたということだ。

土屋粹、完全に消耗

この敵の失態も、われわれの反撃により追いつめられた結果である。この追いつめられた敵の側、とりわけ土屋粹は、動労千葉組合員の顔を見た

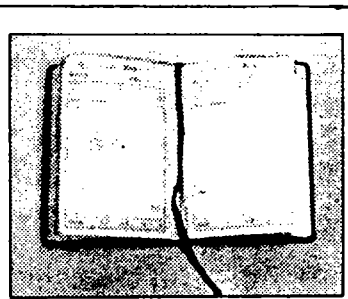
けでビクつき、話しかけようものならそのまま当局に「タレ込み」を行うという有様である。五月二〇日には、動労千葉組合員と一言二言言葉を交したただであるのに、すぐさま銚子運転区当局に「なんとかしてくれ」と泣きつき、消耗感をあらわにしているのだ。

デッチ上げ粉碎し、土屋一派解体・一掃へ

動労千葉を破壊するために行った「4・7デッチ上げ」も、われわれの反撃にあり、なんら功を奏さず、逆に動労革マル松崎―土屋一派の方がボロボロになっているのだ。

われわれは改めて宣言する。「4・7暴力事件」は完全に「デッチ上げ」であり、われわれは必ずこれを粉碎するものである。

「デッチ上げ」に「デッチ上げ」を重ねる土屋一派を職場から解体・一掃せよ。



盗まれた手帳

「盗まれた」はずの手帳がなぜ「東鉄労」新聞(4/20付)に、敵の方から「デッチ上げ」を認めてきた